

建築主：株式会社千葉ロッテマリーンズ
 設計：大成建設株式会社一級建築士事務所
 施工：大成建設株式会社千葉支店
 所在地：千葉市美浜区美浜1番地

S造のデザイン性への挑戦

千葉ロッテマリーンズ屋内練習場



公園の緑にとけこむ折り紙風船をモチーフにした外観

(撮影/シンフォトワーク 宮本 真治)

建築文化の発展は一面、材料の開発進化とともにあると言える。作品は千葉ロッテマリーンズ球場の一角に建つ屋内練習場である。海浜に建つ建物は、鉄は無論アルミや銅もたちまち塩害を受ける。近年は塩害にも強い耐久性のある合金鋼板が種々開発され屋根や外壁材として様々に普及している。これらの合金類を使用した建物は用途によっては無味な建物になりがちであるが、野球の屋内練習場という特殊な建物であり室内空間が求められる建物として合金鋼板や外部から採光を取り入れるためのポリカーボネート折板の使用は建物にマッチした材料の使用と言える。

鉄骨構造の組み合わせによる大規模空間の創造は用途により求められるものであり、室内の環境整備には採光、照明、空調、換気は第一に考慮すべきことであるが一方、外部の環境にも配慮する必要がある。海岸に近いこともあり、北西側の河川、南側の広い道路等、周囲に防風的なものが無いため、塩害、軽量の外部材料の使用には風害の影響にも配慮する必要がある。作品は屋根、外壁に耐蝕性のある合金鋼板を使用

し、風を受け流すためには屋根、外壁の角度の工夫により処理している。求められる大規模空間は鉄骨造の多面的な組み合わせにより合理的に創造している。デザイン性・周辺の景観との調和が建築文化賞に値する。

自然エネルギーの活用は一般的になり、この作品にも多面的な一面を利用した外部採光の取り入れがあり、100KWを想定したソーラー発電による創エネ設備がされているが当然と思う。しかし今後も、「環境負荷の低減」・「周辺景観との調和」に配慮した建物が建築文化として発展の主流になるだろう。この施設が屋内練習場として、プロ野球選手だけの施設ではなく、地域子ども達にも利用できる親しまれる施設になることを望みたい。（青柳 英俊）



水辺の景観の中で折り紙風船のように夢をふくらませて船出するイメージ



屋内練習場:勝利の光へと導かれるイメージの自然採光と照明計画